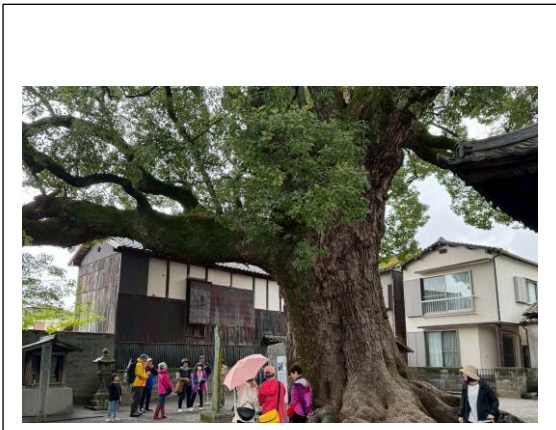
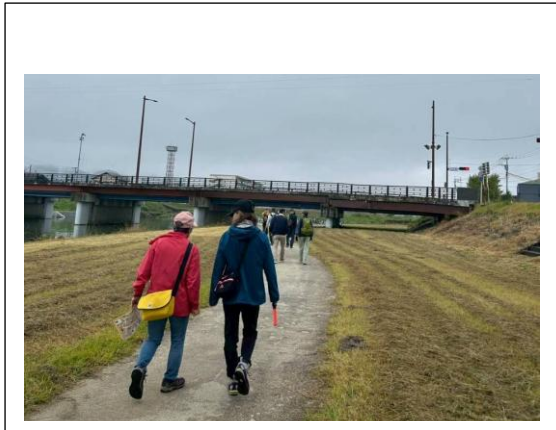


事業報告書

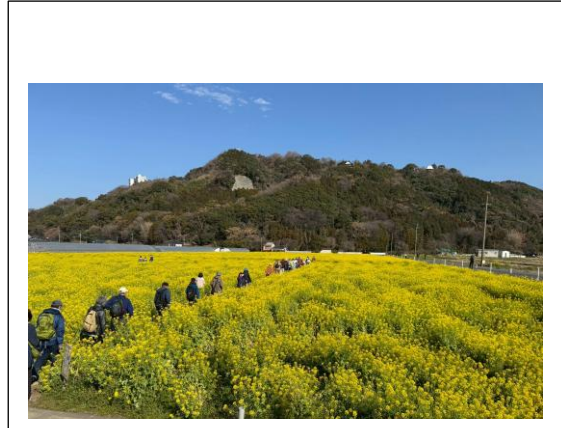
団 体 名	あさくら・あるくーる
事 業 名 称	気ままに朝倉フットパス
事 業 期 間	2025年8月18日～2026年3月16日
事 業 内 容 及びその効果	<p>(事業実施状況・内容)</p> <p>甘木周辺の慣わしや歴史を考察する「甘木街ぶらコース」、杷木地域の自然を楽しむ「杷木コース」の2コースを新たに策定し、コースおよび周辺施設を紹介するフットパスマップを作成した。</p> <p>作成したマップは、参加者へ配布するとともに、あさくら観光協会やマップ掲載店舗等へ設置し、広く周知を図った。</p> <p>イベント開催実績は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月9日(日)甘木街ぶらコース 参加者 17名 ・3月15日(日)杷木コース 参加者 31名 <p>また、地域経済への波及を目的として地域の飲食店が製造した弁当を参加者へ提供した。</p> <p>誰もが無理なく参加できるコース設定としたことで、子どもから80代まで幅広い年代の参加があった。さらに、参加者を少人数に限定することで、安全管理を徹底し、道路交通状況に応じた適切な誘導を行うなど、安心して参加できる運営体制を確保した。</p>
	<p>(事業実施効果)</p> <p>本事業では、健康増進および地域の魅力発見を目的として実施した。参加者の満足度は高く、継続参加意向も95%以上と良好な結果であった。特に市内在住のシニア層を中心に、地域資源への理解と愛着の醸成につながる事業効果が確認できた。</p> <p>また、ガイドによる歴史・文化の解説や地域食材を活用した弁当の提供により、地域への理解を深める機会を創出するとともに、地域内消費の促進にも寄与した。加えて、当日参加した地元住民からガイドも把握していなかった地域情報の提供があり、それを共有することで参加者の理解が一層深まり、満足度の向上につながった。地域住民との交流が新たな価値を生む機会となった点も、本事業の成果の一つである。</p> <p>また、定員30名で募集を行ったが、杷木コースでは2月末時点で既に定員を上回る申込みがあり、本事業に対する関心と期待の高さがうかがえた。</p>

<p>イベントの 周知方法</p>	<p>イベントの周知は、チラシを作成し前回参加者を中心に展開した。その結果、参加者からの紹介による新規参加が見られ、口コミを基盤とした安定的な集客につながった。</p> <p>あわせて、SNS やホームページでの情報発信を行うとともに、「広報あさくら」へ掲載するなど、多様な媒体を活用した周知を図った。</p>
<p>タイム スケジュール</p>	<p>【甘木街ぶらコース】 10:00 コンネアサクラにて受付 10:10 イベントの説明(ガイドの紹介、フットパスとは何か?) 10:15 スタート 12:20 卑弥呼ロマンの湯到着 → 昼食・アンケート記入 13:40 解散 ※昼食後、卑弥呼ロマンの湯にて入浴や休憩など</p> <p>【杷木コース】 9:00 サンライズ杷木駐車場にて受付 9:10 イベントの説明(ガイドの紹介、フットパスとは何か?) 9:15 スタート 12:30 サンライズ杷木到着 → 昼食・アンケート記入 13:30 解散 ※解散後、バサロなどでお買い物</p>
<p>今後の方針</p>	<p>本事業の成果を踏まえ、今後は新規コースの充実と情報発信の強化を図り、参加対象を市外へと拡大していく。特に地域の宿泊施設や関係事業者等と連携し、宿泊を含めた滞在型プログラムの構築を進めることで、地域内消費の促進につなげたい。</p> <p>また、フットパス協会との連携しながら、「朝倉フットパス」としてのブランド力向上を図り、継続的かつ持続可能な事業運営を目指す。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>一方で、参加者の多くが市内在住のシニア層であることから、若年層や市外在住者への周知拡大が課題である。</p> <p>今後は SNS や観光情報媒体の活用、関係事業者との連携による相互発信など、広報手法の多様化を図り、市外在住者を含めた参加層の拡大を目指す。</p>

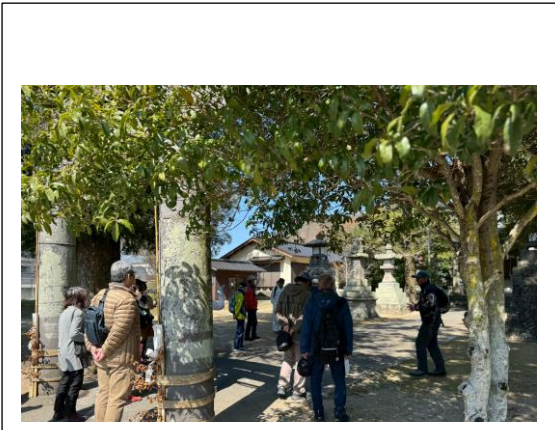
【2025.11.9 甘木街ぶらコース 報告写真】



【2026.3.15 杷木コース 報告写真】



【2026.3.15 杷木コース 報告写真】



【購入備品】受付用テーブル・チェア



【購入備品】のぼり1枚・ポール1本

